

国語科学習指導案

展開学級 3年A組
場 所 図書室
指 導 者 細川 義文

1 単元名 (3年)

読書会で明治・大正・昭和の日本の作品に触れよう

2 単元の見方

- 読書会を通して、さまざまな作品に触れ、ものの見方や考え方を広げ、読書に親しもうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 文章を読んで人間、社会、自然などについて、読書会を通して自分の考えを持つことができる。
(読むこと エ)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと
・読書会を通して、さまざまな作品に触れ、ものの見方や考え方を広げ、読書に親しもうとしている。	・文章を読んで人間、社会、自然などについて、読書会を通して自分の考えを持つことができる。 (読むこと エ)

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動について

本単元では、読書会を通して普段あまりふれることのない、明治・大正・昭和の作品を学習材とする。

書店の文庫コーナーを見ると、新刊にまじり、夏目漱石や太宰治の作品が新たな装丁で出版されている。各出版社のフェアなどで「読みたい50冊」などあるが、その中にも必ず、明治・大正・昭和の作品が選ばれている。現在も読み継がれていることがわかる。

現在千葉市で採用されている光村図書の3年生の教科書には森鷗外の「高瀬舟」が読書教材として取り上げられている。今から100年も前に書かれた作品だが、主題や内容は平成の現代にも通用する、生徒たちに考えさせることができる作品である。

しかし、生徒たちの実態を調査してみると、名前を知ってはいるが、残念ながら読んだことがない、または名前すらも知らないという状態である。生徒たちが自ら手にとって読むという状況ではないことがわかる。

そこで、今回、学習材として明治・大正・昭和の作品を取り上げ、生徒たちが明治・大正・昭和の作品に触れる機会としたい。

時代設定や当時の考え方、言葉の使い方など、現在の中学生は容易に理解できないことも予想される。そこで、同じ本を読んで小グループで話し合い、内容把握や考えを広げることがをねらいとして「読書会」を言語活動として取り入れる。今回の「読書会」は以下のとおりの手順で行う。

- ① 教師がテーマに沿って子どもたちに読ませたい本を紹介する。1種類につき3～5冊の複本が必要。8～13種類を用意する。
- ② 子どもたちは読みたい本を選び、同じ本を読んだ者同士でグループを形成する。
- ③ 1冊の本を数回にわたって区切りながら読み進めていくので、子どもたちは、グループごとに読む範囲を決める。
- ④ 子どもたちは、自分の読む役割を決める。役割は優れた読者が行っている読書活動を、子どもたちに意識的に行わせるためのもの。各グループ内に同じ役割を行う子どもがいないようにする。

役割名と役割の内容
イラスト係：目に浮かんだ情景などを絵・図にする
つながり係：自分とのつながりを見つける
質問係：疑問・質問を見つける
照明係：優れた表現などに光を当てる
作家なりきり係：作家になったつもりで続きを考える

- ⑤ 子どもたちはそれぞれ、自分の役割で、グループで決めた範囲を読む。また、役割シートに、読んで考えたことを書き込んでいく。
- ⑥ 役割に基づいて、グループで話し合う。
- ⑦ 範囲決め、役割シート書き、話し合いを繰り返し、1冊の本を読み切る。子どもたちは、毎回違う役割の読みにチャレンジするようにする。
- ⑧ 子どもたちは、自分たちのグループで話し合ったことを、クラスに紹介する。

(2) 扱う学習材について

言語活動として取り入れた読書会では、前述のとおり、教師側がテーマを設定し、そのテーマにあった本を選書して生徒たちに読ませる。今回の実践では中学校卒業を控えた3年生を対象としているので、主人公を含む登場人物の人生や生き方に触れ、これからの人生をどう生きるのか、考えてもらいたいという願いから、「生きること、生き方」を今回のテーマとしてを設定した。今回学習材として取り上げた作品は以下のとおりである。

作品名	作者名	出版社	触れさせたい登場人物などの生き方
坊っちゃん	夏目漱石	旺文社	主人公坊っちゃんの、不正を許さない、信念を通す生き方
こころ	夏目漱石	旺文社	お嬢さんを得て、Kを失った後の、先生の後悔の人生
野菊の墓	伊藤左千夫	旺文社	政夫と民子の純愛と当時の「家」に従わざるを得ない生き方
友情	武者小路実篤	旺文社	愛する人と親友との間で悩みながら生きる野島や大宮の生き方
路傍の石	山本有三	偕成社	過酷な人生を送りながらも、諦めずに生きていく吾一の生き方
銀河鉄道の夜	宮沢賢治	旺文社	恵まれない境遇にいながらも「みんなのほんとうのさいわい」のためにいきようと誓い合うジョバンニとカムパネルラの生き方
雪国	川端康成	旺文社	なぜ駒子が芸子として生きることを選んだ生き方

二十四の瞳	壺井栄	旺文社	戦争へ突き進む世相の中、教え子たちに「生きること」を教えた大石先生の生き方
あすなる物語	井上靖	旺文社	何ものかになりたいと、もがきながら生きていく主人公鮎太の生き方

また選書の他の観点として

- ・ 中学3年生が抵抗を感じずに読み切れる250～300ページ程度のもの
- ・ 生徒たちが作家や作品の名前を知っているが、読んだことのないであろうと思われる作品の2点である。また現実的な状況として、1作品につき5冊の複本を用意できるものであることも、これらの作品を選んだ理由となっている。

読書会を通して、生徒たちに作品に触れさせ、生徒たちの読書生活を豊かにしていきたい。

(3) 本単元で身につけさせたい力

本単元では、文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、読書会を通して自分の考えを広げることができる生徒、読書に親しむ生徒の育成ををねらいとしている。

今回の単元で行う言語活動「読書会」は「読むこと」の力を伸ばすことができると考える。

新潟大学教育学部准教授足立幸子先生は「読書会」の一つの形態であるリテラチャー・サークルの重要なポイントとして「まず、上手に読めることではなく、稚拙であったとしても、自分が読んできたことを、グループの仲間に伝えることなのである。そのような経験を繰り返し、ほかの人の役割読みを聞きながら、子どもたちは自然に上手な読み方・伝え方を身につけていくのである。」と述べている。

これは倉澤栄吉先生が「読むこと」について述べていることと通じている。倉澤先生は「読む」ということについて訴えたいこととして「第一は、『読む』ということの本質は、コミュニケーション・通じ合いというふうな考え方でとらえなければならないのではないかということ。つまり社会的行動としての読みである。」（『倉澤栄吉国語教育全集11』、p377）と述べている。そして、コミュニケーションの場の、授業への具体的な位置付けとして「読んで彼らが頭の中にイメージとして読みをどう変質させたか。また、その個別のイメージをもとにどのように友だちと話しあっていくか、それによってさらにイメージがどういう影響を受けたか、その受けた影響が次の読みにもどう必然的につながっていったか、というような社会的な面に目的価値を付与すべきではないか。話しあうことも、また、読みである。自分の読み取った情報を交流させる場としての教室、情報を交換しあいながら自分の読み取ったイメージがふくらんでいく。これを読みの連続の中に、正確に位置づけていいのではないか。」（前出、p379）としている。

読んで思ったことを他者に伝えることにより、自己の読みが広がり、自己の読みが変革していくというのである。とするならば、「読書会」を行うことで生徒たちの読みが広がり、自己の読みを変革させられるものと考えられる。

また、読書会を通して、読書に親しむ態度、読書を楽しむ態度を育成したいと考える。同じ本を読んで、良いと思った場面を紹介し感想を述べ合ったり、登場人物や場面について話し合ったりするなど、交流し、共有する場を設けることで、生徒たちにより一層本の楽しさを味わわせることができるだろうと考える。また、このことにより、生涯にわたって読書に親しむ態度の育成につなげたい。本実践を通して、どのような交流、共有の場を設ければ、より効果的に読書に親しむ生徒が育成できるか、本の楽しさを共有できる読書指導はどのようなものか、そして生徒たちの読書生活を広げるためにはどうしたらよいかについて、実践を通して検証していきたい。

5 生徒の実態（指導の経緯）

(1) 生徒の様子（3年の1クラス32名）

読書に対する興味・関心の高いクラスである。

本校では朝読書を行っているが、朝読書の時間前から着席し、読書を始める生徒が半数以上い

る。また、休み時間や給食の時間など、ちょっとした合間にも読書をする姿が見られる。

新たな本を見つけようという姿勢もよく見られる。2年次の学習で「都会のトムソーヤ」に関する学習材を用意したとき、読んだことのある生徒は2、3人であったが、「おもしろい」という評判を聞いた他の生徒がこぞって図書室へ行き、借りて読んでいる様子が見られた。

同じ本を読んで意見交換をする姿も時折見かける。読書に関するアンケートの項目に「本に関することで、読む以外で楽しいと思うことはどんなことですか。」と質問したところ、「人と本に関する情報を共有すること」と答えた生徒がいた。

今回の読書会を通して、生徒たちが感じている「人と本に関する情報を共有すること」をメタ認知させ、さらなる読書への意欲化につなげていきたい。

(2) これまでの学習歴について

平成26年4月に「生きる・生き方」というテーマで読書会を行った。扱った学習材は以下のとおりである。(全て文庫本)

作品名	作者名	出版社	作品名	作者名	出版社
翼はいつまでも	川上健一	集英社	いちご同盟	三田誠広	集英社
傍聞き	長岡弘樹	双葉社	ヤッさん	原宏一	双葉社
フライ、ダディ、フライ	金城一紀	角川	楽園のつくりかた	笹生陽子	角川
おれのおばさん	佐川光晴	集英社	戸村飯店 青春100連発	瀬尾まいこ	文春

授業後の感想を見ると、「分けて読むことによって、より興味がそそられた。」と答えている生徒がおり、読書会によって読書への興味・関心が高まっていることがわかる。「自分が見つけれなかったものをグループで話し合うことで見つけられた。」と答えている生徒もおり、読書会を行うことで、自分の考えを広げられることを実感している様子が見られる。読書会の終わりに、各班で話し合ったことをクラスで発表するのだが、授業後の感想の中で「読んでみたい本」として他の班で読まれた本をあげる生徒が多数いた。読書会のねらいやおもしろさに気付く生徒たちがいたのである。

このことから、若干内容が難しいと思われる明治・大正・昭和の作品についても、読書会を行うことで、他の生徒と意見を交換することの楽しさや考えが広がること、内容を理解することに繋げ、より読書に対する興味・関心を高めることができるだろう。

(3) 読書に関するアンケートについて (実施3年1クラス32名)

今回、明治・大正・昭和の作品を取り上げた理由は、「4 単元について(1) 本単元を貫く言語活動と扱う学習材について」で触れたとおり、平成の現在まで読み継がれている作品であるにもかかわらず、生徒たちがあまり触れていないという実態があったからである。

まず、生徒たちの現在の読書歴についてアンケートを行った。生徒たちが普段親しんでいる作品は以下のとおりである。

・真夏の方程式 (東野圭吾)	・万能鑑定士Qの事件簿 (松岡圭祐)	・東方求聞口授 (ZUN)	・ソードアートオンライン (川原礫)	・王様ゲーム (金沢伸明)	・放課後 (東野圭吾)	・ホームレス中学生 (田村裕)	・ツナグ (辻村深月)	・恋空 (美嘉)	・桜涙 (和泉あや)	・容疑者Xの事件簿 (東野圭吾)	・新世界より (貴志祐介)	・あなたの事が、大好きでした～時を超えたラブレター～ (陽菜Hina)	・赤い糸 (メイ)	・文学少女と恋する挿話集 (野村美月)	・悪食娘コンチータ (悪ノP)	・アバター (山田悠介)	・僕は友達が少ない (平坂読)	・東方儚月抄 (ZUN)	・リトルバスターズ (糸井健一)	・はてしない物語 (ミヒヤエル・エンデ)	・俺の脳内選択肢が、学園ラブコメを全力で邪魔している (春日部タケル)
----------------	--------------------	---------------	--------------------	---------------	-------------	-----------------	-------------	----------	------------	------------------	---------------	-------------------------------------	-----------	---------------------	-----------------	--------------	-----------------	--------------	------------------	----------------------	-------------------------------------

- ・塩の街（有川浩） ・都会のトム&ソーヤ（はやみねかおる） ・給食のおにいさん（遠藤彩見）
 - ・少年少女飛行倶楽部（加納朋子） ・やはり俺の青春ラブコメはまちがっている（渡航）
- ※（ ）内は作者名。

平成の作品、またいわゆる「ライトのベル」と言われる作品が多く、明治・大正・昭和の作品には触れていないことがわかる。明治・大正・昭和の作品に触れさせるためには、意図的に行う必要がある。

さらに、生徒たちがどれぐらい、明治・大正・昭和の作家を知っているか、どれぐらいの読書歴があるのか、以下のようなアンケート調査を行った。

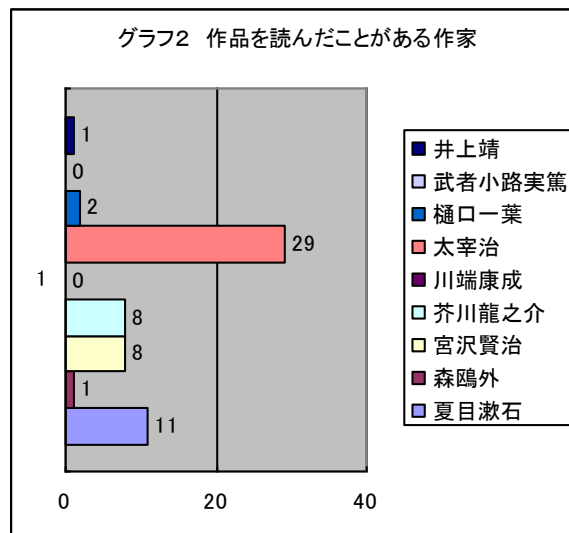
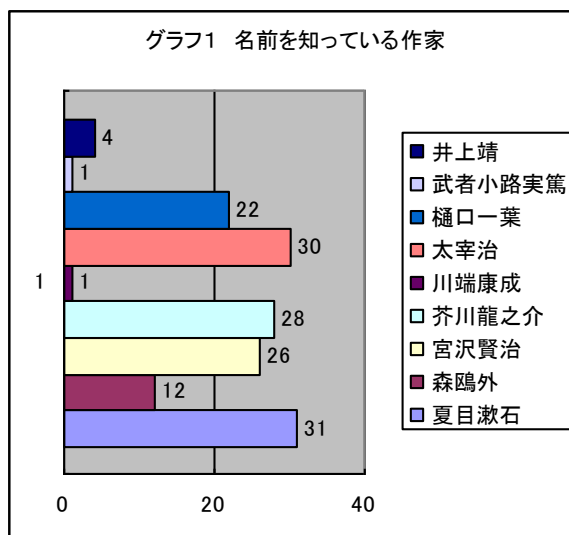
まずは作家の名前を挙げ、知っている作家全てに○をつけるよう指示した。（グラフ1）「夏目漱石」「宮沢賢治」「芥川龍之介」「太宰治」に関してはほぼ全員の生徒が知っていると答えた。国語の教科書に載っていたり、社会の授業で習ったりということを知っている生徒が多かった。また「樋口一葉」を知っていると答えた生徒が22名いるが、これはお札になっているので名前を聞いたことがあるという生徒が多かった。

その他、「森鷗外」が12名と半数以下の生徒しか知らず、そのほか「川端康成」「武者小路実篤」「井上靖」については4人程度が知っている状態であった。

次に作品を読んだことのある作家について聞いたところ（グラフ2）、2年次の国語の教科書に載っている「走れメロス」を読んだことがあるので、「太宰治」については29人が読んだことがあると答えた。しかし「夏目漱石」11名が一番多く、次いで「宮沢賢治」8名、「芥川龍之介」8名と、読んだことのある生徒は半数以下である。「森鷗外」「井上靖」は1名ずつ、「川端康成」「武者小路実篤」については1名も作品を読んだことのある生徒がいなかった。

「森鷗外」については3年の教科書教材「高瀬舟」を読ませることができるが、他の作家の作品については、今後も生徒たちに触れる機会が訪れるかどうかわからない。

今回の読書会で、名前だけを知っているのではなく、明治・大正・昭和の作品に触れ、友だちと意見交換することで、読書の楽しさを感じさせ、生徒たちの読書生活をより豊かにしていきたい。



6 単元指導計画（全6時間扱い）

※教科書学習材「高瀬舟」を読み、約百年前に作られた作品が今もなお読み継がれていることに触れたうえで、発展学習として行う。

時	学習内容と活動	指導や支援の手だて（◇は評価）
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書「高瀬舟」を読み、喜助の生き方、庄兵衛の葛藤について考える。 ・100年前に作られた作品だが、現代にも通用するテーマであることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「安楽死」というキーワードをあげ、現代にも通用するテーマを取り上げた作品であることを伝える。 ◇喜助の生き方や庄兵衛の葛藤について考えることができたか。（観察）
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 読書会で明治・大正・昭和の日本の作品に触れよう ○読書会の仕方について知る。 ・1冊の本を4回に分けて読み、読んだ後にグループで話し合う。 ・読むときや話し合いのときには自分の役割を意識する。 ①イラスト係 →目に浮かんだ情景などを絵・図にする。 ②つながり係 →自分とのつながりを見つける。 ③質問係 →疑問を見つける。 ④照明係 →優れた表現などに光を当てる。 ⑤作家なりきり係 →作者の立場に立って続きなどを考える。 ・積極的に話したり聞いたりするようにする。 ○ブックトークを聞き、どの本を読むか決定する ・3～5人のグループをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割に従い、本を読んで思ったことや感じたことを読書会で活発に意見交換することを確認する。 ◇ねらいをつかむことができたか。（観察） ・プリントを用意し、読書交流会について説明する。 ・必ず読む、決められた範囲以上は読まないなどの重要な約束はしっかりと確認する。 ・およそ100年以上前に作られた作品が、現在まで伝わっていることや現代の小説との比較を交えながら、生徒たちの興味を引くようにブックトークを行う。 ◇学習内容を想起し、自分の読みたい本を選ぶことができたか。（観察）
2 ～ 5 (本時4)	<ul style="list-style-type: none"> ○読書会を行う。 ・みんなで決めた範囲を授業までに読んでくる。 ①自分の役割に従って考えたことをプリントに書く。 ②イラスト係から順に、プリントを使いながら話す。 ③本のテーマ「生きる、生き方」についてグループで話し合う。 ④次回の役割と読む範囲を確認し、本日の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割だけでなく、他の人の役割について話をしているときに、積極的に参加して良いことを伝える。 ・あまり話が盛り上がらないような班については指導者も参加し、話の材料を提供する。 ◇意見を述べたり聞いたりして、自分の考えを広げることができたか。（観察・振り返りシート）

6	<p>○グループで話し合ったことをクラスに紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を示したり、一部を朗読したり、テレビに映して見せたりなど工夫して、自分たちが話し合ったことを紹介する。 ・話し合ったことで考えが深まったこと、気付いたことを紹介する。 <p>○学習全体を振り返って考えたり思ったりしたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用して、授業の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだことのない人にもわかるように工夫しながら発表したり、どんな本なのか考えながら聞いたりするように話す。 ・話し合ったことで考えが広がったことや気付いたことをできるだけたくさん書くように話す。 <p>◇班で話し合ったり他の班の発表を聞いたりして、自分の考えを広げ、他の本に関心を持つことができたか。（観察、ワークシート）</p>
事後	<p>○明治・大正・昭和の作家について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作家や他の作品について、プリントなどを使って知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代背景や作家の人生などにも触れるようにする。

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・読書会を通して、さまざまな作品に触れ、ものの見方や考え方を広げ、読書に親しもうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・文章を読んで人間、社会、自然などについて、読書会を通して自分の考えを持つことができる。
(読むこと エ)

(2) 本時の学習活動

本時では、自分たちが選んだ作品をそれぞれ役割にしたがって読み、発表を行う。また、他の生徒が発表したことを聞くだけでなく、自分の考えも積極的に発言する。このことにより、作品について自分の考えを持つだけでなく、他の意見を聞いたり意見交流をしたりすることで、ものの見方や考え方を広げたり、読書に親しもうとする態度を育成したりすることをねらいとしている。

(3) 本時の展開 (3 / 6 時間)

	主な学習内容と活動	指導や支援の手だて (◇は評価)
導入	<p>○読書会の目的と内容について再確認する。</p> <p>作品を読んで自分の考えを持つとともに、読書会を通して自分の考えを広げよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役割に従って読書することで自分の考えを持つと同時に、読書会を通して考えを広げることが出来ることを伝える。
展開	<p>○役割に従って読んだことを「役割シート」へ記入する。</p> <p>①イラスト係 →目に浮かんだ情景などを絵・図にする。</p> <p>②つながり係 →自分とのつながりを見つける。</p> <p>③質問係 →疑問を見つける。</p> <p>④照明係 →優れた表現などに光を当てる。</p> <p>⑤作家なりきり係 →作者の立場に立って続きなどを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の係のポイントとなることを意識しながら、また、同じ班の人達に伝えることを考えながら「役割シート」に記入することを伝える。 <p>◇自分の係を意識して「役割シート」に記入できたか。（観察・役割シート）</p>

	<p>○班で読書会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラスト係から「役割シート」を使って自分の考えを発表する。 ・自分以外の発表でも積極的に質問したり自分の考えを述べたりする。 <p>○本のテーマ「生きる、生き方」についてグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公や登場人物の生き方について考えたり思ったりしたことについて意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズな進行を心がける。 ・発表する姿勢、聞く態度については、普段のおしゃべりと同じようなものでよいことを伝える。 ・自分たちの伝えたいことが聞く人に伝わるように意識しながら発表させる。 ・あまり話が盛り上がらないような班については指導者も参加し、話の材料を提供する <p>◇意見を述べたり聞いたりして、自分の考えを広げることができたか。（観察・振り返りシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する姿勢、聞く態度については、普段のおしゃべりと同じようなものでよいことを伝える。
まとめ	<p>○次回の係分担や読む範囲を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員がどの係をやるのか、どこからどこまで読むのか、確認する。 <p>○本日の学習を振り返って思ったり考えたりしたことを「振り返りシート」に記入する</p> <p>☆作品を読んで、自分が考えたことと、友達と話し合っ、発見したり改めて思ったりしたこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が共通理解できるよう話し合いができているか観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたことと他の人の意見とを比べて思ったこと、読書会をしてよかったことや困ったことを記入するように伝える。 <p>◇自分の考え方を広げ、読書に親しもうとすることができたか。（振り返りシート）</p>